

令和元年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版：様式】

1 津山市重点取組

津山市立鶴山中学校

津山市重点課題	誰が(Who)	何を(What)	いつまでに(When)	どのように(How)	達成される児童・生徒像(数値目標)
学びのサイクル(津山モデル) 授業改善と家庭学習をつなぐつまずき解消	・授業改革リーダー ・教務主任 ・研究主任 を中心に全職員	① 授業改善(ユニバーサルデザインの授業づくり) ② 基礎・基本の定着	今年度末	① 授業改善 ・年3回(1人1回)の研究授業と研究協議 ・授業改革リーダーによる授業観察及び指導・助言 ・基礎(学習集団)づくり ・基礎・基本の定着 ・授業終了の理解確認(振り返り、確認問題など) ・確認問題(類似)の課題 ・授業始めの復習(課題の確認、小テストなど) ・補充学習(放課後学習、土曜日学習、テスト前補充学習、長期休業補充学習など)	・授業に主体的に参加できる生徒。 (生徒アンケート「授業がわかりやすい」、「授業に落ち着いて取り組み、集中できている」の項目で80%以上)
生活習慣の改善 スマホ対策と家庭学習の充実(児童会・生徒会や家庭等)	・授業改革リーダー ・教務主任 ・生徒指導 ・生徒会担当 を中心に全職員	① スマホの使い方などのメディアとの付き合い方の指導 ② 家庭学習の充実	今年度末	① スマホ対策 ・メディアコントロールの取り組み(輪山ブロックPTAとの連携) ・PTSネットワーク(生徒会、PTAとの連携) ・情報モラル教室(学校警察連絡室との連携) ② 家庭学習の充実 ・家庭学習の手引きの活用 ・課題カレンダーの活用 ・「いえべん」の取り組み ・家庭学習時間グラフの活用	・日々の時間に見通しをもち、計画的に取り組む生徒。 (生徒アンケート「平日の家庭学習時間1時間以上」の項目で75%以上、「平日のスマホやゲーム等の使用時間2時間以内」の項目で80%以上。)

2 全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果及び成果と課題

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】	【学習状況調査の結果】
【全国学力・学力・学習状況調査】(3年) ○国語の正答率は、本校81.0(全国72.8)、数学の正答率は、本校66.0(全国59.8)で、標準スコアは、国語53.3、数学52.1と全国平均よりかなり高い。 ○英語の正答率は、本校56.0(全国56.0)、標準スコアは、50.0で全国平均と同程度である。 ○国語は、「読むこと」の領域の正答率が特に高く、読み取る力がついている。自分の考えを根拠を明確にして書く表現力、記述力に課題が見られる。 ○数学は、「関数」資料の活用」の領域の正答率が特に高い。与えられた条件や証明を、根拠を明確にして説明する活用力に課題が見られる。 ○英語は、「読むこと」の領域の正答率が高いが、「書くこと」の領域の正答率が低く、まとまった英文を書く力に課題が見られる。 【岡山県学力・学習状況調査】(2年) ○国語、数学、英語の正答率は、本校63.9(全国66.4)、本校51.6(全国53.7)、本校53.3(全国61.5)、標準スコアは、48.7、49.0、46.4と全国平均より低い。 ○国語は、漢字の読みと正答率が高い。また、「書くこと」の領域では一定の成果は見られるが、3段階構成で書くことに少し課題がある。 ○数学は、「数と式」「関数」の領域の正答率はよいが、「図形」「資料の活用」の領域に課題が見られる。 ○英語は、リスニングなど「聞くこと」の領域の正答率が高いが、「読むこと」「書くこと」の領域の正答率は低く、課題である。 【岡山県学力・学習状況調査】(1年) ○国語、数学、英語の正答率は、本校65.0(全国70.4)、本校66.0(全国71.9)で、標準スコアは、46.9、47.0で全国平均より低い。 ○国語は、話の内容を聞き取る、漢字の読み、書きの正答率が高いが、「書くこと」の領域で課題があり、特に指定された文字数や3段階構成で書くことを苦手としている。 ○数学は、小数・分数の計算など「数と計算」は比較できていて、単位量あたりの大きさ・平均などの「量と測定」、百分率などの「数量関係」に課題が見られる。	① 平日の家庭での学習時間(1時間以上)の割合は、1年68.2%(県83.0%)、2年75.4%(県74.4%)、3年73.4%(全国69.8%)で、全学年とも1時間から2時間の割合が高い。また、「家で自分で計画を立てて勉強している」と回答する生徒の割合は、全学年とも県、全国平均より低い。 ② 平日のテレビ等の視聴時間(2時間以上)は、1年50%、2年43%で、県平均よりも低いが、平日のスマホの使用時間(ゲーム、YouTube等)は、長時間(3時間以上)使用している生徒の割合も高く、県と比較して全体的に高い傾向にある。 ③ 「自分にはよいところがある」(自己肯定感)は、1年69.5%(県80.7%)、2年81.5%(県75.6%)、3年90.0%(全国74.1%)で、2、3年は県・全国との比較において高い。 ④ 3年生の平日の読書時間が1時間以上の割合は、全国と比較して高いが、反面全くしない生徒の割合も全国より高い。学校図書室や地域の図書館を利用する生徒の割合も全国と比較して高い。 生活習慣に関する項目 ・「朝食を毎日食べる」と回答する生徒の割合は、1年91.7%、2年89.2%、3年85.0%である。 ・「就寝時刻、起床時刻が毎日ほぼ同じ」と回答する生徒の割合は、2、3年は県平均と同程度であるが、1年は県平均より低い。 ・「家の人、地域の人にあいさつをしていた」と回答する生徒の割合は、1年は県平均より高いが、2年は県平均より低い。 ・「学校の規則を守っている」と回答する生徒の割合は、全学年とも高く、規範意識の向上が見られる。

成果 課題

成果 ○授業研究や研究協議、日常の授業観察による授業改善の取り組み、問題データベースの活用による基礎・基本の定着を図るなどにより、2、3年ともに調査した教科の標準スコアは、同一集団の前年次より高くなっている。 ・3年・・・国語53.3(50.6)、数学52.1(52.1)、英語50.0(48.3) 2年・・・国語48.7(46.9)、数学49.0(47.0) ※()内の数字は、同一集団の前年次の標準スコア ○ソーシャルスキルトレーニングなどによる集団づくりを大切にすることで、互いに教え合う場面が増え、「話し合う活動で相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていく」、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問に肯定的に回答する生徒の割合も高い。 ○授業導入時の「目標(めあて・ねらい)は示された」、授業終了の「振り返る活動が行われた」ができていると回答する生徒の割合が高い。多くの授業では、授業終了に振り返りを書くことで、自分の学びを見取らせるとともに、書くことに対する抵抗感を和らげることができた。 ○朝読書の時間を大切にした取り組みの成果として、図書館を利用する生徒や読書をする生徒が増えている。また、落ち着いた生活にもつながっていると思われる。	課題 ○国語、数学、英語にも活用型(思考、判断、表現)の問題を苦手としており、特に記述式の正答率が低く、無回答率が高い。自分の考えを根拠を明確にして書く表現力、まとまった英文、つながりのある英文を書く記述力などに課題が見られる。 ○基礎・基本的な内容の定着が図れていない生徒の割合が多い。 ○メディア(特にスマートフォン)を利用する時間が長い生徒の割合が高く、家庭学習の時間が十分でない生徒の割合も高い。 ○課題を提出することを大切にしている生徒は多く、課題提出の割合は高いが、課題への取り組み方が十分でない生徒も多い。 ○生活習慣(就寝時間、朝食)が確立している生徒の割合がやや低い。
---	---

3 今後の取組

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
授業改善	今年度末	「授業が工夫され、わかりやすい」、「授業に落ち着いて取り組み、集中できている。」(生徒アンケート)が80%以上。	・特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり。 「アセスメントシート」の分析結果を活用して、個々の特性に応じた支援を行うことで、学習意欲を高める。また、相互の授業実践(輪動)を批判的に、授業改善に努める。 ・基礎(学習集団)づくり。 ソーシャルスキルトレーニングの活用を通して、コミュニケーション力の向上を図るとともに、学び合う場面を育成する。そして、授業でのペア、グループ学習につなぐ。自分の考えを述べ、意見を述べ合う学習。					
基礎・基本の定着	今年度末	学力状況確認テストの標準スコアが50以上。	・定期的な放課後補充学習、テスト直前直後の補充学習の実施 ・9年を対象とした「放課後学習(週1日)」及び「土曜日学習(月2回)」の実施 ・問題データベースの活用(授業の確認問題、小テスト、学力調査確認問題など) ・全学年、朝の会、朝の会、授業後の数学の補充学習と確認テストの実施(チャリティ) ・英検などの検定問題の活用					
家庭学習の定着と充実	今年度末	家庭学習が1時間以上の生徒の割合を75%以上。	・学習の手引きの活用と進捗 ・課題の出し方の工夫。(習字カレンダー、ホワイトボードの掲示) ・いえべん(毎日の家庭学習の計画)やテスト計画の取り組みと学習時間の集計。 ・メディアコントロールの実施。(6・11・2月にメディアコントロール週間の実施、正しいメディアとの付き合い方を考える学習)					

※達成度 「S:目標を多く上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(60%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上60%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組 保護者・地域へ理解・協力を求めること

○県・全国学力学習状況調査の分析をもとに、学力向上を目指した授業改善。(ユニバーサルデザインの授業づくり、小中合同研修) ○規律ある授業づくり。(チャイムスタート・チャイム終了、教室環境整備) ○各校の授業公開への積極的な参加。 ○小中間における児童生徒の情報交換。 ○小学校への出前授業の実施。	○「家庭学習のスタンダード」「家庭学習の手引き」を活用し、学級懇話や個人懇話で家庭学習のあり方や方法を呼びかける。 ○生活習慣の確立(就寝時間、朝食、メディアコントロールの取り組み)を家庭と協力していく。 ○「いじめ」について、学校・生徒会・PTAと協力して取り組み、安心できる学校づくりを目指す。 ○「学校評価アンケート」を実施し、日々の教育活動にいかす。
--	--